

第2回検討委員会までの取組結果のまとめ (アンケート・ワークショップ)

徳島県危機管理部

平成30年11月12日(月)

1 アンケート調査結果のまとめ

項目	結果
「臨時情報」の認知状況	<ul style="list-style-type: none">・「臨時情報」を「知っている」と回答した割合は約3割。
半割れ（大規模地震）の際の行動	<ul style="list-style-type: none">・大津波警報又は津波注意報が解除された際に、「自宅へ戻る」との回答が約8割、「避難所で生活を続ける」との回答は1割程度。・60歳以上で「自宅へ戻る」が顕著。・浸水想定区域内と区域外で大きな違いはない。
一部割れ（前震可能性地震）の際の行動	<ul style="list-style-type: none">・事前避難を行うことが望ましい対象は、「要配慮者」や「子供」、「津波が早期に到達するおそれのある地区」の方との回答が多い。・事前避難の対応を想定しているのは約7割。・事前避難の判断は、「臨時情報」と回答したのが2割強となっており、市町村からの避難勧告・避難指示を踏まえて行うとの回答が7割と多い。・事前避難しない理由としては、「すぐに避難できる」や「仕事・学校」、「避難所生活への不安」などがあがっている。・浸水想定区域内と区域外で大きな違いはない。
避難所生活	<ul style="list-style-type: none">・「半割れ」「一部割れ」とも「終日避難」の割合が多くなっており、「夜間のみ避難」の割合は2割程度。・「半割れ」の方が「一部割れ」よりも、「臨時情報による判断」や「長期の避難生活」の割合が高い。・高齢者層ほど、短期間の避難生活を選択。・期間の判断は、「避難所生活の負担・不安」や「仕事や学校」を理由。

2 WSの結果まとめ

項目	海陽町浅川地区	鳴門市里浦地区・川東地区	地区の違い
避難行動 (半割れ)	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅等への移動が大半 ・移動のタイミングは、大半が「津波警報・津波注意報」の解除 	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅等への移動が大半 ・移動のタイミングは、大半が「津波警報・津波注意報」の解除 	大きな違いは見られない
避難行動 (一部割れ)	<ul style="list-style-type: none"> ・一時的に避難する意見が多数 ・余震や行政からの情報により避難を選択 ・何も起こらなければ半日から1日程度で帰宅 	<ul style="list-style-type: none"> ・即避難可能な場合や、被害がない状況では自宅にとどまる ・余震や避難指示の発令により、避難を選択 ・一時的に避難するが、地震の状況によって帰宅 	大きな違いは見られない
避難所生活	<ul style="list-style-type: none"> ・3日から1週間程度までが限度 ・「夜間のみ避難」など「終日避難」の選択はわずか ・避難所環境（プライバシー）や治安の悪化を懸念 	<ul style="list-style-type: none"> ・3日から1週間程度までが限度。 ・「夜間のみ避難」など「終日避難」の選択はわずか 	大きな違いは見られない
その他意見	<ul style="list-style-type: none"> ・避難場所での一定期間の滞在に向けた機能充実が必要 ・臨時情報の確実性が不明確なため、行動の選択における基準としにくい 		

- ・ 自宅での生活を行いたいとの意見が多い
- ・ 津波警報・注意報、避難勧告等の情報が住民の行動選択に影響を与えている
- ・ 避難所生活の期間は3日から1週間程度が限度
- ・ 避難所生活の形態は「夜間のみ避難」との意見が多く、「終日避難」の選択はわずか
- ・ 地区や臨時情報発表の時間帯による大きな違いは見られない。